

環境に配慮の 経営方法学ぶ

松江、E A21研修会



演説写真。二酸化炭素排 出量の増加回避などを理 由に、再生紙の古紙配合 率を偽装した製紙大手各 社を「地球環境が注目を 浴びる中、ゆゆしき詐欺 行為だ」と批判。企業の 環境対策に対する消費者 などの不信感の拡大を懸 念した。

環境マネジメントの国 内規格「エコアクション 21 (E A21)」の活用策 を学ぶ研修会が二十二 日、松江市であり、同規 格関連事業を担う財団 法人の幹部が講演。製紙 大手各社による「エコ偽 装」を例に、環境に配慮 した経営の在り方を問 いかけ、E A21を通じた 環境意識の深化を呼び掛 けた。

環境省の外郭団体、地 球環境戦略研究機関持統 性センターの森下研・E A21中央事務局次長が講 演。また、大手企業の多く が環境マネジメントの国 際規格「ISO1400 1」を取得し、取引先に も環境対策を求めている 現状を説明した。

古紙偽装問題を引き金 に、関係業界で相次いだ 関連製品の生産・販売中 止の動きを「自社が悪く ないから『責任はない』 とは言えない。中小企業 を含め、広範なリスク管 理が必要だ」と分析し、 E A21の認証取得を通じ た体制やノウハウの構築 などを提案した。

島根県内のE A21関連 事業を手がけ る、県中小企業 団体中央会など が開催。地元企 業や自治体など から四十人が参 加した。